

今回は、ふるさとむら活動研修会（養父市樽見）に参加された農村ボランティアの方の感想を紹介するとともに、28年度に新たにふるさとむらに登録された地区（養父市樽見）の概要をお知らせします。今後のふるさとむらでの活動の参考にしてください。

平成28年度 ふるさとむら活動研修会を養父市樽見で開催

ふるさとむらの現状を都市住民等に知っていただき、都市住民の力を借りて農村集落を活性化するため、農作業に関心のある人を対象に新規農村ボランティア会員への登録促進を図るため平成28年10月8日（土）、養父市樽見地区において活動研修会を開催しました。

今回は、現地集合を合わせて計30名の農村ボランティアの参加となりました。「樽見公民館」でオリエンテーションの後、圃場に出てにんにくの植付け方法を地区の方から教わった後、1グループ3人に分かれにんにくの植付け作業を行いました。

昼食は、地区の女性手作りの地域の食材を生かした料理や新米で作ったおいしいおにぎりなどをいただきました。

台風18号の影響で雨が心配されましたが、現地の天候は曇りで作業に支障なく無事研修を終える事ができました。

<樽見地区活動研修会に参加して>

10月8日（土）バス移動中も天候状況が思わしくなく気になっておりましたが、作業中は雨に遭う事なく、持参した雨具も用なし、暑くも寒くもなく、良い環境での作業・研修ができ、充実した一日となりました。農村ボランティア参加者は、バス・自家用車組、合わせ30名。

研修地の樽見地区は、人口120人（空き家もあり50軒？）65歳以上が45%、耕作放棄田なし、地域には樹齢千年の国指定天然記念物「樽見の大ザクラ」（エドヒガンザクラ）があり、保存会により維持管理を続けているとお聞きした。

圃場での作業（研修）は「上海早生」（ニンニク）の植え込みとその関連作業。午前中は、全員でニンニクの植え込みを、午後は3グループに分かれ、午前中の植え込みの残りを12名で、13名でニンニクの分割・掃除、5名でマルチの土寄せ。圃場と土の状態は良く、全ての作業が順調で午前午後とも予定時間より早く終了しました。今日のニンニク植え込み数は、合計6,500個位、収穫は来年6月頃らしい。

畝を二人で挟み長手方向に植えていく作業のため、情報交換も出来、楽しく時間のたつのが早く感じられました。欲を言えば地域の方が随所に入っていたかくことにより、より幅広い地域との交流が出来たのではと感じました。

昼食は、地域の新鮮で美味しい食材とご婦人グループの心尽くしの手料理で満腹・大満足でした。

ふるさとむら樽見さんのご繁栄と皆様のご健康を念じ、私達農村ボランティアが少しでも地域のお役に立てればと思っているしだいです。

（神戸市 井上 良一さま）



オリエンテーション



ニンニクの植付け作業



昼食時の意見交換会

第31号(2016年12月)

ボランティアの会員になって8年になります。実家は農家ではなかったので農業への興味がありました。種、又は苗の植え付けから収穫までの間、今まで知らなかったことが沢山ありました。大屋町樽見地区は今回初めてです。にんにくの植え付けをするまではどのようにして植えるのかなとわくわくしていました。

皆さんほんとうに良く働かれますね。毎回思います。

前日の予報では当日雨模様でしたが心配することなく作業は順調に進みました。

農家の皆様のご苦労大変ですね。少しでもお役にたてたら嬉しいです。

これからも、いろんな地区に行ってお手伝いがしたいです。頑張ります。

(神戸市 岸根 信子さま)



圃場へ移動



ニンニクの分割・掃除

養父市は2回目の訪問で、1回目は田舎暮らしの物件探しに来ました。

自然豊かで環境も良く農家の皆さんの穏やかな人柄、天滝も美しく見事です。

今回、ニンニクの植付け作業は初めてで、自分にできるだろうかと心配しましたが、やってみると何とか出来ました。育って芽がでてくれたら良いけど。植付け作業が終わり今度はニンニクの房分け作業。参加者の皆さんの手際の良さ、仕事の速さについていけませんでした。

昼食時の手づくりのおにぎり、かき揚げ、味みそ、漬物、板のり汁物、田舎料理はほんとうにおいしかったです。もう一度ボランティアに参加したいです。

(宝塚市 岸本 静江さま)



手作りの料理



土寄せ

新しくふるさとむらに仲間入りしました「やぶさん」です

平成27年4月養父町大屋町で荒廃化の進む農地を活用し高付加価値の香辛料作物栽培を目的に仲間3名と株式会社「やぶさん」を設立した。

長い間議論を重ねたがスタートラインに立つにはずいぶん時間を要した。決断に背中を押してくれたのは養父市が国家戦略特区に指定された事だった。

何となく時代の流れに乗れたような感じでスタートラインに立ったのである。経験のない作物栽培、挑戦を余儀なく感じる流通改革、重圧から逃げたいような農業経営、栽培前には7名の仲間が出来次年度計画8名が見込まれまずまずの出発であった。

平成27年9月～10月に1.3ヘクタールの農地にヤンマーから植付け機を借用し初めてニンニク植付けを行った。心地良く作業は終了した。

圃場と生育管理はすべて予防措置を前提とし栽培に励み順調に収穫を迎える事が出来ると思っていたが以外な面から亀裂が入りかけた。共同農場管理に特定の人に負担がかかりすぎていた事、種子が原因と思われる生育不良、異常な高温による春グサレ病の発生、瞬時に発生する雨で収穫の遅れ等、厳しい労働と販売見込の無い作物に去ってゆく仲間もいた。

このような環境下で平成28年度の植付けは意欲の低下から不可能を極めた。面積も大幅に減少し、農機レンタルも多額の費用を必要とすることから無理なことではあるが、手作業以外にできる事ではなかった。

挫折しかけた時だった。「ふるさとむら」の話聞いた時、飛びついた。信じられない事だった。30人のボランティア活動である。まだ生き返るチャンスは残っている。大勢の人が後ろから支えてくれる。そう感じた時涙が出た。ありがとうございました。精一杯頑張ります。

(やぶさん 代表 藤岡 美智夫さま)



にんにく植付け作業



植付け後1か月の圃場



収穫後のにんにく



販売用にんにく

都市農村交流バス運行支援制度についてのお知らせ

兵庫県では都市と農村の交流を推進するため、次のようなバス運行への支援制度があります。

農山村応援活動バス

県内の中山間地域で、集落と共同で行う農地・農村の保全活動

利用対象者 農村でボランティア活動を実施しようとするグループ

● 農村ボランティア活動とは

豊かな自然環境の中で、農作業や農村を元気にする活動を応援する活動です。

関心のある方は下記までお問い合わせください。

(※) 中山間地域とは、山間地及びその周辺の地域で地勢等の地理的条件が悪く、農業の生産条件が不利な地域。

助成内容

バス1台につき 日 帰 り : 2万5千円

1泊2日 : 5万円

(ただし、バス借り上げ経費がこれを下回る場合は、その借り上げ経費が上限)。

1回の申し込みで3台まで利用可能。

利用バス1台につき、10人以上の参加者が必要。

申込方法

申込期限 : 利用日の20日前まで

提出書類 : 所定の申込書、バス費用の見積書等

提出方法 : 郵送または窓口申し込み。

バスの利用案内、申込用紙は兵庫楽農生活センターホームページからダウンロードできます。

受 付

各期ごとに台数設定をし、先着順で受付します。

受付期間

通年

お問い合わせ

農村ボランティア事務局 (兵庫楽農生活センター内)

TEL 078-965-2651

FAX 078-965-2653

編集・発行 (公社)兵庫みどり公社 兵庫楽農生活センター 楽農交流課 農村ボランティア事務局

所在地 : 〒651-2304 神戸市西区神出町小束野 30-17

電 話 : 078-965-2651 FAX : 078-965-2653

E-mail : koryu@forest-hyogo.jp HP : <http://hyogo-rakunou.com/nousonbora/>